

菊陽人 りさーち



さとう あやね
佐藤 文音さん (10歳)
[光団地]

- 趣味 遊ぶこと
- 自分を一言で表すと テンション↑↑
- 自慢 習字3段
- 今一番やりたいこと アイスを食べたい!



みやた りお
宮田 里緒さん (10歳)
[光団地]

- 趣味 ボウリング
- 将来の夢 看護師
- 自慢 縄跳びが上手
- 家族に伝えたいこと おいしいご飯をありがとう!

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.18】

「違いを認める」ことや「親の姿を見つめ直す」ことを大事にして学校の人権教育は取り組まれています。作者は他を認め、見つめ直すことで相手を大切にしているだけでなく自身を豊かに変容させているようです。
*作者の学年は前年度の在籍学年となります。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

「差別は必ずなくせる」を学習して思ったこと

菊陽南小学校5年 中村 美諒

私は、「差別は必ずなくせる」を勉強して、差別をしている人は、間違った考え方や決めつけとかをしているからだとおもっていました。でも、私もそういうことをしていたのかもしれない。一学期に男子の様子を見て、一方的にこそばかにしたように言ったり、笑ったりしていることがありました。女子二人から三人ぐらいでしてました。そういうところが「差別は必ずなくせる」の差別をしている人に似ているなど改めて感じました。男子の行動や見た目、性格などで決めてつけて見えました。男子との違いをちゃんと認めたいなかつたと思います。でも三学期になつて一人ひとりの違いをちゃんと認められるようになってきました。二学期に学習した「心のレシーブ」で、女子と男子の違いで初めはよくわかっていなくて、後で気づいて協力し合うという話でした。この学習をして、違いを認め合えていないということに気づき話合をして、男



▲違いを認めて

子にあまりいろいろ言わなくなったし、一人ひとりのことをよく理解し、違いを認め合えるようになったと思います。話合いをすることで差別をなくしたりできるから、これからもしていきたいと思えます。これから、私は一定の角度から見るとはなく、いろんな角度から見ると、間違った考えかたをしていたら早く気づいていきたいです。クラスのみんなも学級のみんなを大切にしようになりました。私たちの学級がこうして変化していつているのも差別について考え、学習し、話あっているからだと思います。これは、今までずっと差別を受けてきて、とてもつらくて苦しい思いをしてきた「差別は必ずなくせる」おじいちゃん、おばあちゃんたちの訴えや願いについてみんなでしっかり考え合つたからだと思います。

「お父さんと同じ仕事をやる」の学習と職場体験を通して

菊陽中学校2年 吉本 奈央

私は仕事というものをただきついで、給料をもらえればそれでいいのかと思っていました。でも、人権学習や職場体験を通して

仕事に対する考え方が変わりました。人権学習では親の仕事のことを考えました。私は父のようになりたくないとずっと思っていました。なぜなら、父の仕事は肉休労働で、大変な仕事だからです。父自身も「俺はこの仕事にしかつけんかった。だけん、こんな仕事につかんていいように今のうちに頑張つとけ。」と言っていたので「そうだな」と思い、いつの間にか父のようにはなりたくないと思うようになったのだと思います。しかし、職場体験に行くことで、仕事をしていて、うれしいと感じることもあるということに気がしました。「お客様に喜んでもらえることがうれしい」と職場体験の担当の方にききました。確かに私も、お客様にたずねられたときに質問に答えるとありがたいと言われてとてもうれしかったです。父の様子を見て、仕事はきついことばかりかなと思っていたけれど、実際自分が職場体験で仕事をしてみて、仕事をするにはうれしさや喜びがあることが分かりました。なので、父にもきつと仕事をする上でうれしさや喜びがあると思います。今度それを聞いてみたいです。



▲学び合い

きくよう文芸

菊陽句会報

甚平や寛ぐ夫と夢の中	坂本百合子	梅雨明けや先づは物干す一日掛け	吉野 早苗
行き尽くもみどり滴る苔の庭	田中 郁子	朝顔や色を残して萎れけり	川口 豊子
千人針形見となりし敗戦日	村田 正三	日除け帽園児のお散歩縄電車	井上久美子
ひと日だけ出合ひの人や野管草	井 子文	亡き父母に逢いに行く道夏の蝶	宮川ユキエ
覚えなき父祖に掌合はす孫の盆	財津 早雪	夕空に一日の無事や日々草	日高 妙子
初生りの西瓜食べ頃迷ひをり	原野レイ子	今夜から籠が住居の曹虫	曾我 育代
一面のひまわり畑の背くらべ	西村ひとえ	羽根淡き甲虫飛ぶ庭の先	曾我トモ子
蜻蛉の動けば動く風の中	カ 幸子	ふと触れし蟻螂の子に凝視され	紫藤 祥子
いかずちや静くあれかし大病めば	寺尾千代子	額ずけば我も仏心夏法話	村上 朋子
ふるさとにぐんと根を張り青田かな	高橋 孝子	一片の浮雲白し梅雨の明け	野口 令史
夏休み家族旅行の荷物持ち	佐藤 航	生涯に捨てる夢なし冷奴	松橋 強
東京は人が多すぎ暑いなあ	佐藤 健	睡蓮や隙間の風に煌めける	佐藤 澄世
挽きたての胡瓜工夫の味を得し	佐藤 節	徐行中何処まで一緒赤トンボ	三島 一路

短歌会

光りつつ揚羽の蝶がとび交いて庭の日差しは秋の色濃し
早朝の庭静かなりつゆ草の花一輪が紫に咲く
涼風に吹かれて待ちぬペルセウス座の星降る夜をひとり仰げり
穂の出でて伸びたる稲は続くなり今日青々き阿蘇路過ぎ行く
朝よりは激しく蟬の鳴きおりてみどり濃き葉に風はそよぎつ
今は無き川瀬かき舟浮ばして舟対岸の花火合戦

今村 貞子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
森 敦子
東 廣喜